



## 同窓会会報

発行：獨協埼玉高等学校同窓会 発行人：玉山 栄一  
〒343-0037 埼玉県越谷市大字恩間新田字寺前316  
☎048-977-5441 FAX048-977-2031  
e-mail: info3@dokkyo-saitama.ed.jp  
URL http://www.dokkyo-saitama.ed.jp/

## 2002.5.19 同窓会総会・懇親会報告

五月十九日、獨協埼玉高等学校・中学校を会場として、第五回同窓会総会が開催されました。午後二時より視聴覚教室にて行われた総会では、昨年度事業・会計報告、今年度事業計画・予算案のほか、同窓会事務局開設に関する議案が上程され、同窓生各位のご理解により可決されました。

我々同窓会幹事は、月一回の定例幹事会の中で、同窓会が携わる業務毎に「総会」「蛙鳴祭」「会報」の各チームのいずれかに所属し、活動に従事しております。同窓会事務局はこれらのチームを統括し、より円滑な同窓会活動を目指すべく

このたび開設されました。

総会終了後、引き続き懇親会が食堂で行われ、石井校長はじめ教職員の皆様もお見えになり、今回駆けつけた新宮先生と多数の同窓生とが懇談する場面もありました。今回の懇親会にご参加いただいた同窓生は、当初幹事会で予想した人数以上となり、幹事にとっては嬉しい悲鳴となりました。

そして懇親会での目玉は「大ビンゴ大会」。学生時代お世話になった? 「獨協レポート用紙」(獨協グッズは当日会場で一番人気)をはじめ豪華賞品が用意され、教職員や卒業生が一体となり至福の

一時を共有することが出来ました。ご参加をいただいた石井校長はじめ教職員の皆様、そして当日足をお運びいただいた同窓生の皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。

来る平成十五年、獨協埼玉高等学校同窓会は設立五周年の節目を迎えます。よって今回の同窓会総会・懇親会をより充実させるべく、同窓会では検討を開始しました。同窓生の皆様、是非懇親会や蛙鳴祭に足をお運びください。

中学校も開設され、生き生きと変わりゆく母校をいつまでも見守っていただければ幸いです。同窓会へのご意見、ご要望も、事務局や幹事までお気軽にお寄せ下さい。多くの同窓生の皆様と至福のひとときを分かち合いたい。それが同窓会一同の願いです。





## 刺激があるから生きられる

同窓会会長 玉山栄一



今の日本は、不況で厳しい時代にある。その「今まで通り」が通用しなくなってきた状況の中で、新しい問題に直面した時、それに対応するため、我々は頭を悩ませたり、いろいろな人との出会いの中から新しいアイデアを生み出したりする。このような新しい刺激が脳を活性化し、活発にし、的確な状況判断や細やかな気配りを養っている。その脳については、次のような実験結果がある。

サルの子どもを暗い小屋に入れて、刺激を全く与えないで育てる実験をしたところ、間もなくサルの生気が失われて、小屋を開けても外に出ることはなく、結局は長生きをしなかった。どうやら脳というのは、無刺激に耐えられないようだ。真っ白な壁の部屋に閉じ込められた人間が幻覚を見るときも、実は脳が幻覚という刺激を作り出して、自分を助けようとしているらしい。

同窓生の皆さんも、厳しい社会状況を実感する毎日だからこそ、脳への新しい刺激が必要なのはずだ。パターンに固執せず、難しい局面を逆に楽しめる発想こそが、今の社会での成功の鍵なのかもしれない。それは同窓会も同じである。今までのようなありふれた同窓会ではなく、みなさんの脳に刺激を与え、活性化できるように同窓会活動を展開していきたいと考えている。相互刺激のために、これまで以上の協力をお願いしたい。

## まもなく25周年

校長 石井征次



我々が獨協埼玉高等学校も、昭和55年4月の開校以来22年を経過しました。まもなく25周年を迎えることとなります。

25周年の記念事業としては、まだまだ青写真もできていない段階なのですが、平成17年に第2体育館を建設する予定でおります。首尾良く竣工の暁には、竣工披露をかねて開校25周年の記念祝賀会を行うこととなりますので、その時には、同窓生諸兄諸姉多数のご出席を期待しております。

記念事業や記念祝賀会へのご協力の依頼や相談はこれから追々させていただきますと、とりあえず、こうした予定があることだけ告知させていただきます。

獨協埼玉高等学校は、昭和55年男子校としてスタート、そして57年に共学校となり、現在は中学校も併設されて獨協埼玉中学・高等学校となりました。そうした様々な変化がありますもの、ここ、越谷恩田新田の地は、同窓生の皆様にとって大切な思い出の場所であるはずです。

そのような皆様の思い出を裏切らない充実した楽しい学校として、今後も獨協埼玉中学・高等学校が発展できますように、同窓生諸兄諸姉の今後ともいっそうのご支援をお願い申し上げます。

## 中学ができて...

10期生 高田晶子



「突然ですが、あなたの母校の校歌を歌うことができますか？」と尋ねられたとき、皆さんはどう答えますか？ほとんどの同窓生が「ああ、獨協埼玉高等学校」という最後のフレーズを歌うのではないのでしょうか。私もその同窓生の一人でした。が、昨春から獨協埼玉の教壇に立ち始めた私は、ある事実が気がつきました。それは、校歌の歌詞が変わった！ということ。皆さんご存知の通り、昨年、獨協埼玉中学校が開校し、中学生・高校生と一緒に歌える校歌を...ということ。最後のフレーズが「ああ、獨協埼玉 わが母校」という歌詞になったのです。

今春から担任をしている中学1年生は、入学式翌日からの日光2泊3日の合宿中に校長先生から超熱血歌唱指導を受け、学年集会などで元気に校歌を歌っています。音楽選択者でない(選択者でも??)覚えていない2・3番の歌詞までバッチリ歌えます。「開拓・創造・信愛」という校訓がちりばめられた校歌を6年間元気に歌い続けてくれることでしょう。

夏休みが終わると、9月末の蛙鳴祭、10月の体育祭に向けて慌しくなります。中学1年生は、学年主任でもある尾花先生の影

響か、4クラスのうち3クラスが劇に挑戦します。英語劇あり、お笑いあり...です。生徒たちとともに教員も一生懸命です。「懐かしいなあ」と感じた同窓生の皆さん、是非、懐かしい学び舎に遊びに来てくださいます。お待ちしております。

## 決算・予算報告

### 平成13年度決算

収入の部	支出の部
★19期生終身会費(354人) 3,540,000	★会報費(発送費含む) 1,304,812
★H12年度より繰越金 8,365,702	★事務費(文具代) 9,090
★既卒者終身会費 1,470,000	★パソコン代 384,709
★預金利息 1,146	★文化祭活動費 81,804
	★はっぴ代 65,520
	★終身会費二重払い返金(2名) 20,000
	★次年度繰越金 11,510,913
<b>合計 13,376,848</b>	<b>合計 13,376,848</b>

### 平成14年度予算(案)

収入の部	支出の部
★20期生終身会費(359人) 3,590,000	★会報費 1,500,000
★H13年度より繰越金 11,510,913	★通信費(後納郵便等) 150,000
★預金利息 1,087	★事務費 300,000
	★総会費 400,000
	★慶弔費 200,000
	★文化祭活動費 100,000
	★雑費 50,000
	★幹事会費 100,000
	★予備費 12,302,000
<b>合計 15,102,000</b>	<b>合計 15,102,000</b>



# あの先生は今……

今号から転任、退職された先生方に高校での思い出を語っていただくことになりました。記念すべき第一号は平成八年年まで勤務されていた新宮先生です。

## 『追 想』

新宮 讓治



東京文京区の獨協中・高等学校で非勤

講師に採用されてから半世紀目に入る。六十五歳の定年後二年間の空白はあるが、今も獨協大学で、「コマだけの非常勤講師を勤めて七十二歳になった。その内、獨協埼玉には一九八〇（昭和五五）年に赴任し、九六（平成八）年に定年退職するまでおよそ十五年間勤務した。

いつ頃からか、蛙鳴祭では中庭の胸像に鉢巻きが巻かれるようになった。この胸像の人は獨協埼玉高校設立時の理事長・関湊氏である。教職員の間にはその胸像に接しているし、開校初年度に入學された同窓生は、入学式の挨拶で、その人柄に触れ、かなり強烈な印象を持たれたのではなからうか。

この人から私が話を直接聞いたのは、一九六七（昭和四二）年、東大名譽教

授・高橋明（医博）氏に代わって理事長に就任され、椿山荘の会で「高橋先生はベントツ、私はダンブ」と、経営方針大転換の決意を示唆された時であった。

私より少し先に就任していた友人・高梨富士三郎氏（故人・獨協中高教頭）は獨協学園発行「人間 関湊」に「思い出」として次のように書いている。

「酒宴も終わりに近づいた頃、理事長は突然「君たちには分かるまいが」と前置きして、自分の生い立ちを話された。ひと区切つたとき、教員の某が分別顔で、「理事長よく分かります」と言った。途端に言葉も荒々しく「何が分かる。分かってたまるか」と叫んだ。理事長の目にきらりと光るものがあつた。

生徒は鉢巻きを締めておもしろがっているが、胸像の理事長はこういう一面をもつ人である。貧しい農家に生まれて、小卒後上京、辛酸をなめ尽くし、めくめくと大学を出て、ろくに世間の苦勞を知らない奴らに、「分かってたまるか」という程の苦勞を経て、天野貞祐博士に請われて理事長に就任、大獨協を背負うことを自他共に許す地位を築いた。

銀の杯などという代物で酒を出す気障な座敷を、理事長招待という酒宴の場に、設定したこと自体が誤りである。初めから不機嫌は見えていた。その上、とってつけたおべんちゃら発言である。関湊理事長は感情の起伏のままに、罵声で怒鳴

りつけることが多かったが、それは常に不条理・傷つけられた自尊心・軽薄なる者への怒りであった。

獨協埼玉高校は関湊氏が生前に創った最後の学校である。大病をして、その病がいかなる結果をもたらすか、充分理解していたと思う。自らの胸像の除幕式に自ら出席した。その日、「私が造った学校だ」という、関湊らしい自己主張と自信を見た。

浅草のうなぎ屋の二階であつたと記憶するが、「めったにやらないのだが」と一言断りを入れて、ハンカチを頭にのせ、その端を鼻先に結んで理事長は踊った。それこそめつたにない、うちとけた姿であつた。獨協医大理事長になった磯田仙三郎博士は、彼の郷里の歌・秩父音頭を卑猥な歌詞の部分までも含めて、ながながと歌った。黒沢清学長は器用に江戸座敷芸を披露した。私はしようがないから、歌声運動で覚えた「どじょっこ、ふなっご」を歌った。関湊胸像を見ると、その時のハンカチの頬かぶりと、蛙鳴祭の鉢巻きがすぐに重なってくる。

獨協大学門前を流れる伝右川の汚染度は有名である。雄飛祭（大学祭）の名物・「伝右川レガッタに出ませんか」と、声をかけられて、おもしろそうだ、「よし、出よう」と口に出かけた。獨協埼玉時代にせんげん堀レガッタなどというのがあつて、生徒に誘われていたら、多分、ゴム

ボートを漕いでいたと思う。水辺の遊びはすべて好きだ。一瞬、自分の歳を考えると断った。そんなことを講師室で話したら、「予防接種だけでも大変なかねがかる」と、一人の教授に憮然と言われた。その誘いをかけた学生は獨協埼玉出身の某君である。

停年退職の日が迫つたある日、図書館で雑誌を立ち読みしていると、数人の生徒に囲まれて退職金の額を聞かれ、「けっこうもううよ」と迷った。続いて、年金で暮らしてゆけるのかという質問が出た。「月にすれば二〇万は超えると思つ」と答えた。「そりゃあ、なんとかやってみますよ、安心した」。生徒に心配されて、うら淋しい気分にもなつたが、その時、退職金から些少を奨学資金に寄附してゆく気になった。

業務を終えた事務室で、林さん（現事務長）が首を振りふり尺八を吹いて別れの饞としてくれたこと、その時、篠田さん（現総務課長）も同席してくれたことは忘れられない。年に二、三度学校を訪ねるたびに、ずっと使っていた益子焼きの湯呑み茶碗で、原田さんがお茶をだしてくる。そんな持てなしに目がうるむようになったら、みっともない。男がすたる。絶対に獨協埼玉に顔を出さないつもりである。



# 卒業生インタビュー

part 4

5期生 寺田 昌弘

## 冒険の扉、叩くのは好奇心、開けるのは勇氣、飛び込むのは挑戦



**小平** バリダカールラリーに出たいと思いはじめたのはいつですか。

**寺田** 中学での発熱後あたりですね。このときは第二次反抗期、思春期といった情緒不安定な時期に重なり、「生きていくこと」「そのものが当たり前ではない」と思っていました。入院しているときには隣の病室の子は亡くなってしまふし。そんなときテレビでバリダカールラリーを見たのです。サハラ砂漠を不屈の精神で乗り越えていく男達の勇姿を。今でもその映像は脳裏に焼き付いています。

**小平** それで初めてレースに出たのはいつですか。

**寺田** 高校でもバリダカールラリーに行きたいとみんなに言っていました。そんな無理だろう、行けたらいいねと言われていました。高校からアルバイトをしてコツコツ資金を貯めました。そして推薦で獨協大学へ進学し、ここでもアルバイトには入らず、ひたすらアルバイトとオフロードを走る練習をしていました。そして大学4年の夏休みを利用して、オーストラリアを縦断するラリー、シドニーからダーウィンまで6500KM 9日間走る、バリダカの次に過酷なラリーにバイクで出場しました。右も左もわからず只行きたいの一心で。結果は半分も行かずにリタイアでした。それでもこのときに出会った先輩方が、あとで生きてきます。この先輩方に「いつか必ず、この世界に戻ってきます」と言ったことを憶えています。

**小平** しかし一度、企業に就職しますよね。  
**寺田** 大日本印刷に入社したのは、「社会、

経済、企業の縮図」が見たかったからです。

ひとつのメーカーに入ってしまうと、ビルメーカーはビルのことには専門的になれますが、異業種の話があまり見えてきません。だからこの会社や大手広告代理店などあらゆる企業と取引している企業に入りたかったのです。私は包装事業部に配属され、主に製薬メーカー、食品メーカーを数社担当しましたが、社内を歩く予想通り、あらゆる経済の現場の情報が集まってきました。



す。本当にためになる会社でした。

**小平** それがどうしてラリーに。

**寺田** 大日本印刷に勤めていたときから、実は自動車をコアとしたフリーライターの仕事もしていました。土曜と有給休暇を使って、取材、撮影、原稿執筆と、今思えば毎日よくやっていたなと思います。しかし入社4年目の冬、母が急に他界し、そのとき初めて知らされたことがあります。今までスポーツ、勉強ともに一生懸命やり、一部上場企業に入社するまでに自分が成長できてきたと

思っていました。昔から「息子は父の背中を見て育つ」といいますが、まさに同じ社会人として肩を並べたと思っていたのです。しかし「生まれて今まで、ずっと母親に抱かされて、親父の背中を見せてもらっていた」ことを、母が亡くなり、初めて自分が地面に立たされたことに気づきました。そして中学からの夢であったバリダカに行く決心をします。

**小平** すぐに会社を辞めて、バリダカへ。

**寺田** いいえ、会社を逃げるようなことはできません。営業でしたが、社内表彰を取ってはじめをつけようと思ったのです。それから半年後、社内表彰を受け、辞表を提出しました。ここからはフリーライターとして働き、バリダカの準備に明け暮れます。もともとエンジンが大好きなものが好きで、運転するのが好きでここまで来ました。だからバリダカという自分の「夢実現」と、なにか自分の技術を社会に還元できない援を展開する日本のNGO団体が運転手と無線技術者を募集していたので同時にこれにも参加しました。

**小平** それはどんな仕事だったのですか。

**寺田** 96年11月に1ヶ月間サハラ砂漠(モリタニア)の砂に埋もれそうな村の病院までクルマを走らせ、医師と物資を運び、病院にソーラー発電機を利用した無線機を設置。

**小平** そしてあしがれのバリダカですか。

**寺田** そうです。97年1月に夢だったバリダカに初めて参戦。しかし四日目にバッテリーが炎上し、リタイア。サヘル地帯(マリ共和国)から自力でセネガルの首都ダカールまで脱出しました。中学時代から12年間、夢見続けてきたバリダカ。あまりにも悲惨な結果にしばらく落ち込んでいました。1回出場するのに約1500万円以上かかりますから、そう簡単にはリベンジとはいきません。しかし、ここであきらめたら、もう一度と夢を実現することはできないのではないかと、翌年再度出場します。そしてクラス優勝。よく「思えばかなう」なんていいますが、これは現実的には「思ったら、思ったとおりに動くから、思ったとおりになる」ということでしょう。また「たなからボタモチ」なんていいますが、この突如のクラス優勝はまさにタナボタでした。しかし13年間、棚にぼたもちをのせていたのは、自分であり、応援してくれた方々だと思っています。

**小平** その後はどんなことを。

**寺田** その後もサハラ砂漠でのNGO医療支援活動に参加。自分よりさらに若い志願者が増えたため、こちらも卒業しました。次の世代へのバトンを渡したわけです。先輩としてふんぞり返っているのは、しょうがないので。そして京都会議以降、世界が環境保全を真剣に考え出したころ、私のなかにも、世界ではどのような政策、施策がとられているのか、見てみたくなりました。そうしたところ、バリダカを日本人で初めて参戦した横田紀一郎氏から「世界中の環境保全の現場をハイブリッドカーに乗って見てまわるのだが」といわれ、いっしょに行くことになりました。



第3回  
あの日  
なつかしき

# 硬式テニス部の軌跡

獨協埼玉高等学校が創立して20数年が経とうとしています。初年度から硬式テニス部は活動しており、数百人もの部員が卒業していき現在に至っていますが、クラブ発足時は顧問、小栗先生・林先生と部員が15人であったことはあまり知ら

れていないことでしょうか。そして2年目からは河端先生を顧問として迎え、3年目には男女共学となり女子の活動も始まりました。

とところで、数あるクラブの中で過去に何度か全国大会（インターハイ）に出場したクラブはあるでしょうか？我が学校において、そういった過去の輝かしい栄光をもったクラブはそうはありませんし、そうであることに誇りを持っていません。現在でもテニスが生生活の一部となっている人も少なくはないでしょう。そして、プロとして活躍している人がいることも



ます。彼らの活躍を大いに期待することにし、新たな獨協埼玉の歴史の1ページ

事実です。趣味の一環ということであれば、テニスの魅力は生涯に渡ってできることにあるのではないのでしょうか。

昨年、中学校の設立とともに中学校硬式テニス部の活動が始まりました。高校のクラブの発足時とは違い、部員が1年生だけでもかかわらず男女あわせて70人ほど入部し、活動しています。中高通して6年間という長い時間をテニスに情熱を傾けるのも大変意義のあることだと思います。

最後に、多方面に渡っているいろいろな場で活躍されている諸先輩方のさらなる活躍をお祈りしております。

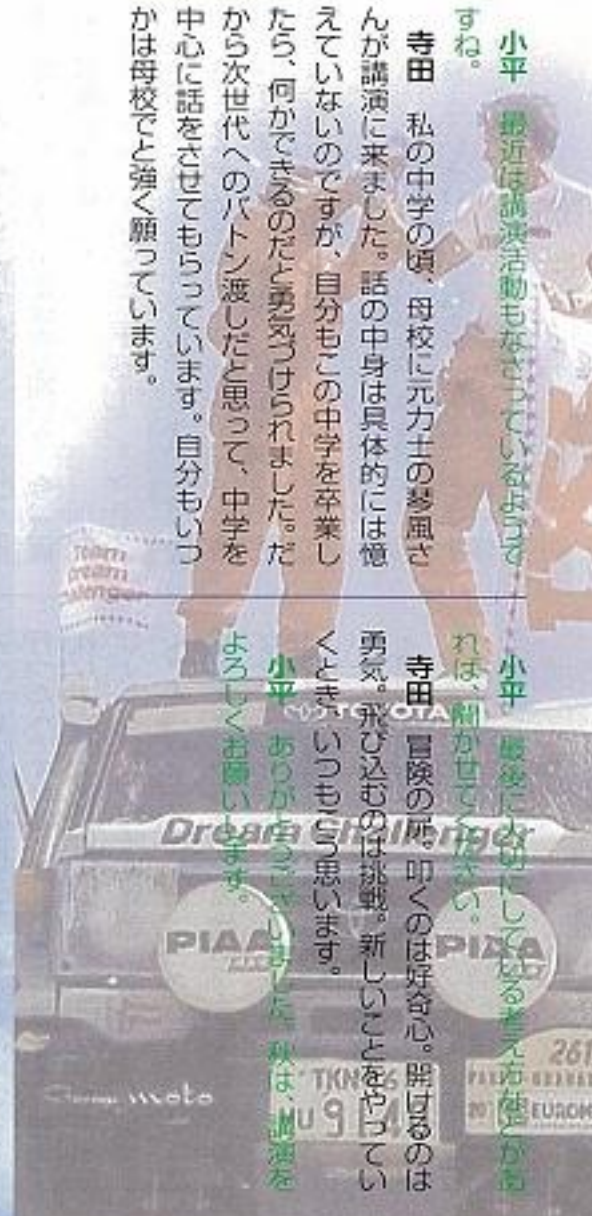
した。99年、ロサンゼルスからニューヨークまで、北米大陸を横断しながら、エココンシャスなヒト、モノ、コトを見てまわり、インターネット、各メディアを通じて発表しました。NASAでは若田宇宙飛行士にお会いしたり、閉鎖生態系循環システムを取材したり、ワシントンDCでは世界の環境の権威、レスターブラウン博士にもインタビューし、多くのことを学びました。2000年はヨーロッパ8カ国を同様に周り

アザラシを保護する初老の女性や、木を植える老人など多くの方々にお会いしました。そして21世紀の幕開け。この環境保全の現場を見る旅と、ハイブリッドカーによる世界初のサハラ砂漠縦断を同時に敢行しました。これは現在ギネスブックに申請中です。北米、ヨーロッパ、そしてアフリカと、世界の環境保全の現場を取材し、2001年は日本を縦断しながら取材をすすめました。

寺田 私の中学の頃、母校に元力士の夢風さんが講演に来ました。話の中身は具体的には憶えていないのですが、自分もこの中学を卒業したら、何かできるのだと勇気づけられました。だから次世代へのバトン渡したと思って、中学を中心に話をさせてもらっています。自分もいつかは母校でと強く願っています。

寺田 冒険の扉、叩くのは好奇心。開けるのは勇氣。飛び込むのは挑戦。新しいことをやってみるとき、いつも思います。

小平 ありがとうございます。秋は、調子をよるしくお願ひします。





**司会** 今回の教員座談会のテーマは修学旅行です。本校の修学旅行は、山陰・山陽で始まり、九州、吉岐・長崎が挟まり、沖縄に至る流れでできています。今回はその節目節目に当たる先生にお集まりいただきました。

**紀内** なんで山陰・山陽にしたかって話じゃないですかね。初めに3泊が決まっていたんですね(そんなんに長く行きたくないのでも)。もちろん飛行機なんて使えない時代でしたから。新幹線で九州まで行くのは荷だつたというので、その途中だったから、まあまあ、3泊できるだろうというので、その3泊で確か決めたんですね。3泊で12月、その条件だけ。京都・奈良は大体、中学で行ってるだろうから、まあ、ちよつと足を伸ばして、山陰・山陽かなという感じですね。

だから、もう1期生のときはもうしつちやかめつちやかでしたから。とにかく修学旅行もやついでやった。だから広島もやってないんです。実は、唯一平和教育やってないのは1期生だけ。あまり平和じゃなかったから、そんなことはないけど(笑)。2期生から1泊増えて、その増えた分、そのあたりから平和教育というのを持ち出したんですね。だから1期生は平和じゃないです。多分。慰安旅行なんです。温泉巡りですね、湯田温泉泊まって寂すからね。2期生は津和野まで行ったんですね。確か1日、やつぱり今みたいに自由行動させて。

**司会** 1部屋何人くらい泊まったの？

**紀内** 昔ながらの修学旅行だったからねえ。大部屋にガバツとついでう感じかな。

**司会** なんか大変だったこととか、ありますか。スタート初年度で。

**紀内** スタート初年度で、大変だったといえ、まず下見の時、確か須藤さんと百合(寿)さんと



私とで行ったんです。大変なのは、朝、新幹線に乗ったでしょう。須藤さんと私が乗ってたら、発車しても百合さんが来ないって(笑)。1泊湯田温泉に着いたら、後からのこのこやってきて、どうしたって言った。彼は東京に出てきて間もないでしょう。彼は当時、春日部辺りに住んでたんですね。ここから東京駅へ行くのに時間が分からなかった。多分それで行くだろうと思つたら、階段上がったら新幹線が出たと。下見もろくな事をやらなかったですね。私、夜の町へ消えちゃいましてね、下見の際(笑)。当時、元気でしたからね。したら、須藤さんと百合さんは、2人で旅館の部屋で仲良くお話ししてたそう、私、いい気分が夜中に帰ってきまして、にらまれたのを感じています。

**紀内** あとエピソードって言えば、当時全員で行ったんだよね。約300人が大広間で飯食うわけよ。最後の晩だったかな、これも百合(寿)さんだよ、生徒に寄せられて「Tokio」を歌って踊つてねえ。あと1期生がバスガイドという仲になつて、それで卒業してからあちらへ通つたんだ。今

で言う遠距離恋愛。

**司会** 夜は、やつぱり男子ばかりだからすこかったですか。

**紀内** 覚えてない。当時は今みたいに教員はアルコールを控えようとか、ないわけよ。生徒10時の点呼をとつたら、後はもう羽を伸ばしてるからあまり覚えてないですね。

**司会** 次に九州に切り替わるのが、3期なのですが、なぜ九州に変わったか、覚えてないですか。

**国府田** 本当は沖縄に行きたかったの。僕の学年なんだけど、でも矢嶋校長が飛行機が大嫌い、私があるうちは絶対飛行機は使わせないということとで、山陰よりは九州かということだったんです。

**司会** 九州で何か思い出すようなことはありますか？

**国府田** 思い出すのは悲惨な思い出ばかりだよ。6期の楠谷・兼川という女の子が。とにかくいたずらが大好きで、修学旅行に関係のない黒い目出し帽と、黒のどつくりと、なぜかマジックを持って修学旅行に来て。寝台列車の中で夜な夜なごそごそ動き回って、とにかく教員の顔にいたずら書き。それで車掌さんにえらい怒られて。

**紀内・鷹番** (声をそろえて) 俺も書かれた！

**紀内** ジャングル風呂で上からのぞけるといって、落っこつたやつがいてさ。大したげはしなかった。あまりそこで落ちたというところは大きな声で言えなくて、ほかの生徒から聞いた。今、腰痛めて部屋で寝てるって。

**司会** 11期も行ってますね、九州。

**国府田** これは普賢岳が爆発しちゃってね。雲仙に泊まる予定だったんだけど。それで急遽、天草の方にコースを変えたの。2カ月くらい前に。

**司会** 飛行機はいつから使えるようになったんですか。

**鷹番** 8期からじゃないかな。自分担任だったから覚えてるけど。8期のときにようやく片道がオーケーになったんですね。

**百合** それもアンケートを取りまくってね。

**国府田** 飛行機を使うことになって、半分ずつに分けて行くようになったんだよね。協定で決まってる。全滅を防ぐために。

**司会** では沖縄の話に入っていきたいと思うんです。スタートの学年となる百合先生、そのきっかけみたいところから。

**百合** 学年が充足したらすぐ騒ぎ出したんですね。沖縄、修学旅行、沖縄っておっしゃって。

**司会** 当時沖縄へ行ってる学校は結構あったんですか。

**百合** それほど多くはなかったです。治安の問題もありましたし。当時は教員間でも意見が分かかれ、かなりの逆風でした。それで飛行機に乗るのが生徒も教員もやはりまだ大変でして、まだ開発期でしたから。要所要所見るだけ見て、という感じでした。今はよく進化しましたよ。皆さんのいろんな努力が広がって、当時の平和学習のメニューもシンプルでした。

**紀内** 沖縄も、あまり修学旅行で受け入れてないから、例えば平和教育を受け入れてやるという体制もまだ向こうまでできてなかったんで、当時は。

**百合** ひめゆり記念館の中で講話くらいですよ。なかなか事前教育を一生懸命やっていったんですけどね、映画見たりね。そんなことして行ったんですけど。今、沖縄に行きますと、観光慣れしてお土産物が非常に豊富になってますでしょう。でも、当時は買ってくるものがなかったんです。パイナップルの干したのっていうと、こんな大きいやつなの。黒砂糖っていうとこんなの。

**鷹番** 当時万座毛にでっかいウミガメを売っていたんですよ。3万円だった。これお宝になるなと思って買おうと思つたんですよ。そしたらうるさい生徒がいて、「先生、あれ、ワシントン条約違反だよ」って、でかい声出して後ろの方にいるわけ。





店のおばさんが出てきて、「そんなこと言う人に売れません」って、それで買えなかったんだよ、ウミガメ(笑)。あと、覚えてるのは夜8時に、みんなでプールに飛び込むって計画があったんだ。夜、午前2時からいまで見張ってたね。

**国府田** でも一番悲惨な修学旅行は15期だよ。九州と沖縄両方やったんだから……。死ぬ思いだった……。伊江島のホテルはすごい部屋だね。トイレ・風呂がガラス張りで見ええなんだ。絶対新婚カップル用だと思うんだけど……。矢口さんとそこに泊まったんだよ(笑)。

**司会** では最後に吉岐の話をお願いします。  
**国府田** 吉岐って朝鮮だっけ(笑)。  
**司会** まず、なぜ吉岐を？

**尾花** そう、平和教育をするのに、沖縄がずっと続いていたんだけど、やっぱり九州、原爆へ行ったというのが、最初にあったのかな。

**中山** あとは民宿に分宿したかったということかな。

**尾花** 味わえない味を出したいねというのもあったし、大きい自然というか、やっぱり自然の中に入っていくのもいいし、というのもあったんだよね。ゆつくりと自然の中にとっぷり浸けてやるうというような感じがあったんだよね。本番危なかったんですね。前日まで天気が悪くて、ほとんど年に何回しか止まらないフェリーが、前日は欠航だった。大体飛行機も飛ばないぐらいだったから。やっぱり危険な橋を渡ってるかなと思った。

**百合** 下見は飛行機で飛んだんでしたっけ。  
**尾花** 下見はYS11で行った。  
**全員** 怖い。

**尾花** 下見は安藤(聡)先生と堀内先生と僕で行ったんです。だけど初めて乗ったけど、あれはすごいね。輸送機みたいな感じがして。エンジンがかかると分かるんだもんね、バリン、バリン、バツバツとか揺られて、飛んでるときも低いじゃない。海近しい。安藤先生は高所恐怖症だから、乗ってる間中、ずっと震えてましたけど。

**尾花** 船、結構揺れたよね。

**尾花** 揺れましたよ。翌日だから覚えてたから、すごい揺れた。帰りは平気だったんだけど、行きは揺れて、揺れて気持ちが悪くなる子がいっぱいいたのね。ほとんど揺れないからって、下見のときは言ってたんだけど(笑)。だけど強いのがいるんだよ。福谷さんも、あのぐらぐら揺れてる船で、ゲームで遊んでるの。見るだけでうっとなって(笑)。飛び回って大活躍してた。

**尾花** 高島さんは自分の泊まっている民宿が、夜、すしが握ってもらえないとか言ってる。

**中山** 民宿、本当はよかったですけど。

**尾花** 民宿によって、結構差があったじゃない。夜の生活に差があった(笑)。

**尾花** それで浅川さんのクラスかな。風邪。風

邪ひきが出たんですよ。それがね、出発する前日ぐらいに保護者から電話がかかって、看護婦さんと一緒に行くんですかとか、お医者さんは一緒に行くんですかとか、向こうは病院は大丈夫なんですかとか、やけにしつこく聞く電話がかかってたの。なんでこんななんだ、まあ、しょうがないな。

島に行くんだから心配なのかなと思ったんだけど。着いたときには、そいつだよ、多分。発熱してたもの、完全に、しかも相当悪い風邪で、インフルエンザだね。

**中山** まん延した。だから浅川さんのクラス、

民宿一つ、みんなやられるぐらい(笑)。だけど、あれは民宿じゃなかったら、全学年的に広がったかも知れないけど、ひとクラスで止まった。長崎に来て広がったけど。

**尾花** 吉岐は実際よかったです。地引き網やったり、ペロイン船に乗ったり、釣りやったりとか、いろんな体験をやらしたりしたんだけど、実際何もなかったところだからどうやって1日つぶさせようかって(笑)。みんなが地引網で取れた魚をその場でさばいて刺身にして食わせてくれる。刺身初めて食ったとか、そういうやついっぱいいたね。

**尾花** 朝、6時台に船が出るんですよ。全部民宿が近いところだから見てるんだよ。バスがもうバンバン走っていて、宿に入っていくのが分かるわけ、本部で見ると。宿ではみんなでおにぎりだよ。

**司会** 生徒たちも一緒に。

**尾花** 作ってくれているんだよ、もちろん。おにぎりを作ってくれて、それをここで食べてもいいし、船で食べてもいいけど、要するにそんなような形で前の晩から荷造りしておいて、バスが来たならみんなでバンバン詰め込んで、真っ暗な中で、それぞれ乗れたクラスからどんどん向かう、そうじゃないと間に合わない。バスが競争みたいになあーと走って行くんだよ。

**尾花** バスがあったって観光バスじゃないんだよ。

**中山** 乗り合いバスだよ。

**国府田** なんか話聞いてると、収容所かなんか送られるような(笑)。船に詰められてさ。でも、そんなじゃないんだ。

**尾花** ものすごいがらつと変わる旅行でしたよね。変化としては。

**尾花** なんか本当、長崎に来てみんながっかりって感じ。

**尾花** でも高島さん、2度と行きたくないって言うてる(笑)。

**尾花** 高島さん、今度行くときはいい民宿にして(笑)。

**尾花** でも、まあ、恐らく2度と行かないんだろ(笑)。

**司会** きょうはとっても長い時間ありがとうございました。

●参加者

紀内 恒久先生 (一期学年主任)

国府田道雄先生 (六期学年主任)

百合 久子先生 (十二期学年主任)

尾花 信博先生 (十二期二年六組担任)

中山 郁雄先生 (十六期学年主任)

尾花 信行先生 (十六期三年九組担任)

森脇 淳 (五期生、平成八年)

酒井 直樹 (七期生、平成十三年)

●司会



# INFORMATION

蛙

鳴

祭

9/21(土)・22(日)

●「同窓会の部屋」(教室未定)で皆様をお待ちしております。

## 9/21(土)

●午前11:00~12:00 懐かしの授業

「数で楽しく遊んじゃおう!!」 紀内 恒久 先生

16個の数のヒミツ、誕生日あて、等々。  
楽しく遊ぶとともに、その不思議を探ります。

●午後1:00~3:00 卒業生によるセミナー

3期 高橋 健さん 「エッ! おまえがPOLICE?」

5期 寺田 昌弘さん 「パリ・ダカへの挑戦」

## 9/21(土)・22(日)

●展示企画

年表で見る獨協埼玉の歴史

### 同窓会役員人事紹介 (括弧内数字は卒業期)

理 事	会 長 玉山 栄一 (1)	事 務 局	事務局長 小平 茂 (5)	幹 事	水谷 功 (3)	田中弓子 (15)
	副会長 永島 健次 (3)		事務局総務 高田晶子 (10)		武田信一 (3)	田ノ下紀子 (15)
	森脇 淳 (5)		幹事会進行 井上佐友子 (8)		吉本博之 (3)	永井 穂 (16)
	会 計 瀬戸てるみ (8)		幹事会記録 伊勢陽子 (10)		桑島優紀 (3)	深瀬和之 (16)
	坂井 陽介 (11)		H P 委員 石田大介 (15)		石川和美 (3)	植原浩美 (18)
会計監査 友野 行晴 (1)	仲田英起 (17)	奥泉裕子 (4)	内田青児 (18)			
酒井 直樹 (7)	関淳一郎 (18)	橋本行正 (4)	大作友紀 (19)			
	坂本育美 (18)	大岩幸代 (5)	矢作綾那 (19)			
	岡 悦史 (19)	水口将巨 (8)	佐々木嶺太 (20)			
		川島信也 (9)	小口晃也 (20)			
		櫻井広仁 (13)	山口麻里 (20)			
		竹内友洋 (13)				

同窓会からのお願い

- ①同窓会運営に関するご意見がありましたら、上記の理事・事務局・幹事までご連絡ください。またできる限り、総会に出席していただき、その場で意見を寄せていただければ幸いです。よろしくお願いいたします。
- ②同窓生で同窓会からの郵便物が届かない方がいらっしゃいましたら、電話・FAX・メール等で事務局まで情報をお寄せ下さい。後で同窓会会報等を郵送いたします。ご協力よろしくお願いいたします。
- ③住所などで変更がございましたら、獨協埼玉高等学校同窓会までお知らせください。  
※最近、同窓会を名乗り、電話で個人情報を探ろうとしている団体があるようです。本同窓会では、電話での問い合わせは一切しておりませんので、ご注意ください。

会費納入のお願い

平成11年度の卒業生より、同窓会会則に従い正式に卒業年度に、終身会費を納めていただくことになりました。つきましては、既に卒業された同窓生にも終身会費(1万円)を納入していただきたく、納入票を同封させていただきます。同窓会の運営資金となります。趣旨をご理解の上、ご協力よろしくお願いいたします。  
※既にお振込みいただいた方には振込用紙は封入されておりません。